

俄語文庫

四卷

秋乃日

5  
1139  
37





5  
1139  
37



親  
古  
尾





到来

任遠遠



秋興

一葉

秋の月夜

五彩堂

竹

菊よ

竹宇

淵

東

秋興

秋

飛龍改

飛良

かき



蝶 ひとと 目 秋の氣よ侍る  
若齋

生 垣乃 己 城 破 芭蕉  
東洞

十六 夜 二 揚 己 白と色を揚  
かづ

辛 條乃 招ききりて 己 月  
全 深堂  
白路

河加中田

雨降日五彩菴 己 友を侍る  
あつち 吾れ下りる 興よ侍る  
うつれ  
夜 己 己 己  
中嶋氏  
采玉

十 己 己 己 己 己 己 己 己 己 己  
巴汝

秋 詠  
あつち 己 己 己 己 己 己 己 己 己 己  
馬尺

羽 根 己 己 己 己 己 己 己 己 己 己  
土禮



良辰

名月や招

蒲風

秋興  
招の陰

秋興

秋興

秋興

秋興

秋の夜乃卯の時よきれ

湖南

鳥頂

昔乃花多際

伏見

哥蝶

春人

琴浦

春人

星月夜々の初くハミレ

左海

羅光



老ぬきハかくとそ

南巴社

去々菊又踏涼床のちくもよ

秋興

寐乃言また女猿丸浅夢

十乙夜陰鳥

灯心りて山の端ふまつ月夜

秋詠

晚鐘のそよとあつぬら月

秋興

猫や籠や夢ハあれとも麻の夢

作勝山連

良夜

名月如一木の梢も美大涼

名月や虫乃露かたる若電の戸

秋詠

伊達を恋ひ星をれを也けの里



秋興

麻啼く夜をたしき宇羅の山

河及富田林

甫六

中秋

名月や夜をたしき人の涙よ

宜白

月といふ言ふは福のめんとら

友圃

秋興

初月や夕吸ふ手らの晴るよう

洛 札墨王登岸

有郷音

無月かきこ

流る橋をけぬる月の

休宇

秋興

秋乃も夜を静るおとら

喜人

文音

人々けよふあり月夜のおもひ

洛

喜坡

秋涼

秋草のちよふつとあふ月るあ

哥蝶



秋興

小山飛鳥蝶乃来るる秋の花

白路

月清て千と石を穿ぬたる

わう

精をとりもやうや角力敵

鳥頂

海辺の月

波拂乃そらに雲一宿の月

赤洞

秋咏

酒兼とる月夜月濡し去るれば

三層丸

草狩の人よ訓をて山の犬

極木

秋風のらよ屋け菊をさけ

十月菴 丁々

子鳥も三枝入るる子鳥穂

土礼



秋吟

負角力を夜ハるる 軒うま 左海 踏虹

秋の雲山へさねく かなきく 海芝

腸の秋よ志を込 新深うま 鳥三

雀鳴くまの付秋の海遠うま 五深堂 玉尾

針をこえ危のま海や草乃花 女 外海

廊後せし川を塙をむく送り 河内生野 其鳳

月三月をささく 強よ名葉うま 朱紀

出代乃そねハきく 秋の雨 玉尾



秋録

しづかしの

河内富田林

三日月の

南六

うしろよ

たうぬ

あつあつを

ふのむ

縁葉

海から

啼きのと飽と

喜耕

あふよ

海のき

七八九月並高判

七月秀一

五彩堂選

月神の法为例と笑木様うな カツ山

東羽

蚯蚓啼神乃侍とく改乃と守 フリ

南六

稲妻や志つとくあつて松の抱 サカイ

路虹

花木様志をくう嘆と甲斐もは カツ山

屋鳥

蚯蚓鳴く月神と高と隠れ カツ山

獅丸

日秀一

八千房選

淋しとのわさうとて嘆木様 カツ山

廿男

たつとくそよ切とくもみきる木様 カツ山

春里

鳥居のふよとつれハと蚯蚓 サカイ

羅光

花むくけあもふ梵論のまら 和八木

士口

対とくれ秋を鳴るの蚯蚓 カツ山

朶玉



八月秀一

五彩堂選

淋しきと吹丸めをる ねをふり  
 三亀丸  
 りり築宇路のふ山をくさん  
 竹宇  
 秋の梅をふぬ 常きく眠る  
 東羽  
 瘦るよ稲つけさく通く  
 廿男  
 梅らるやまも似る 秋のふ  
 宝山 サカイ  
 同秀逸 八千房選  
 りり築宇路のふ山をくさん  
 竹宇  
 稲うまきくねよひさきき 水の月  
 三亀丸  
 ねよふくあきも流ぬりり築  
 廿男  
 あく日よ自ひのうたねをく  
 春里  
 稲うつく女を牛のぬきさく  
 川上

九月秀一

五彩堂選

外賣のねを授きく 並ひり  
 支雀  
 熊柳を尻目よりけり 藤のり  
 川上  
 ねよふ山海をたぬのねぬき  
 廿男  
 ねよふ山海をたぬのねぬき  
 宝山  
 子代のねをく 久し 外の手  
 春人  
 同秀一 八千房選  
 東山をたぬのねを授きく  
 羅光  
 外賣のねを授きく 並ひり  
 支雀  
 熊柳をくすく 月のかき  
 川上  
 ねを授きの向ふよき 熊の柳  
 廿男  
 ねひく山寺の鐘 響り  
 備中 池蛙



安騎多都也昨  
日二架倭流磯  
之浪

廿男



尾尾料也 屋馬

女師光

二二日少

くつろよ

土賣多

つらき

おま

くつろよ

紫水

冬乃秋吉里と 東羽

冬乃麻

縮友

ま

ま

あ

人のま



秋興

百菊又叶下の星を打きくたう

五言

暮を乃花初あはれにけり

丁

あきの吟

ねらうれ里を何とろ小の月

朱耗

秋興

秋の風吹定ぬらう

芭

伏見

未

秋詠

人さそよと踊るをれくまろ

義仲寺

重原

り秋や小のなうれ月もあ

俗

宋也坊

菊のさよと後しをさぬ方

立卯

尾さ方のたそぬも麻の啼き

蒼乱

あそいあよる二もろつせ

大江丸

中秋名月

うつの月をさうろつと

梅後

又

何事もなく園をさるあはれ

鳥頂



良友

君よ名を招き興ありきとの月

秋友

秋興

加茂川に流るる星と月夜を尋

湖上

志く菊や有るよきの降物情

女  
秋哉

ささきを後むらむらと學ぶ

丁

秋

井上

梅友

しづかに

あまの

そ

秋の



良夜

名月や

花あけのころ

人通す

来々

を詠

夕暮も同じ色なる松原を

馬天菴

玉柳

秋興

秋の暮何ありとも秋の暮

好祖

良辰大海戎備ふ持て

くさの月浪と誰屋ら山忘るる

三龜丸

十四

と秋浪舟

龜丸

雲々いよ家の

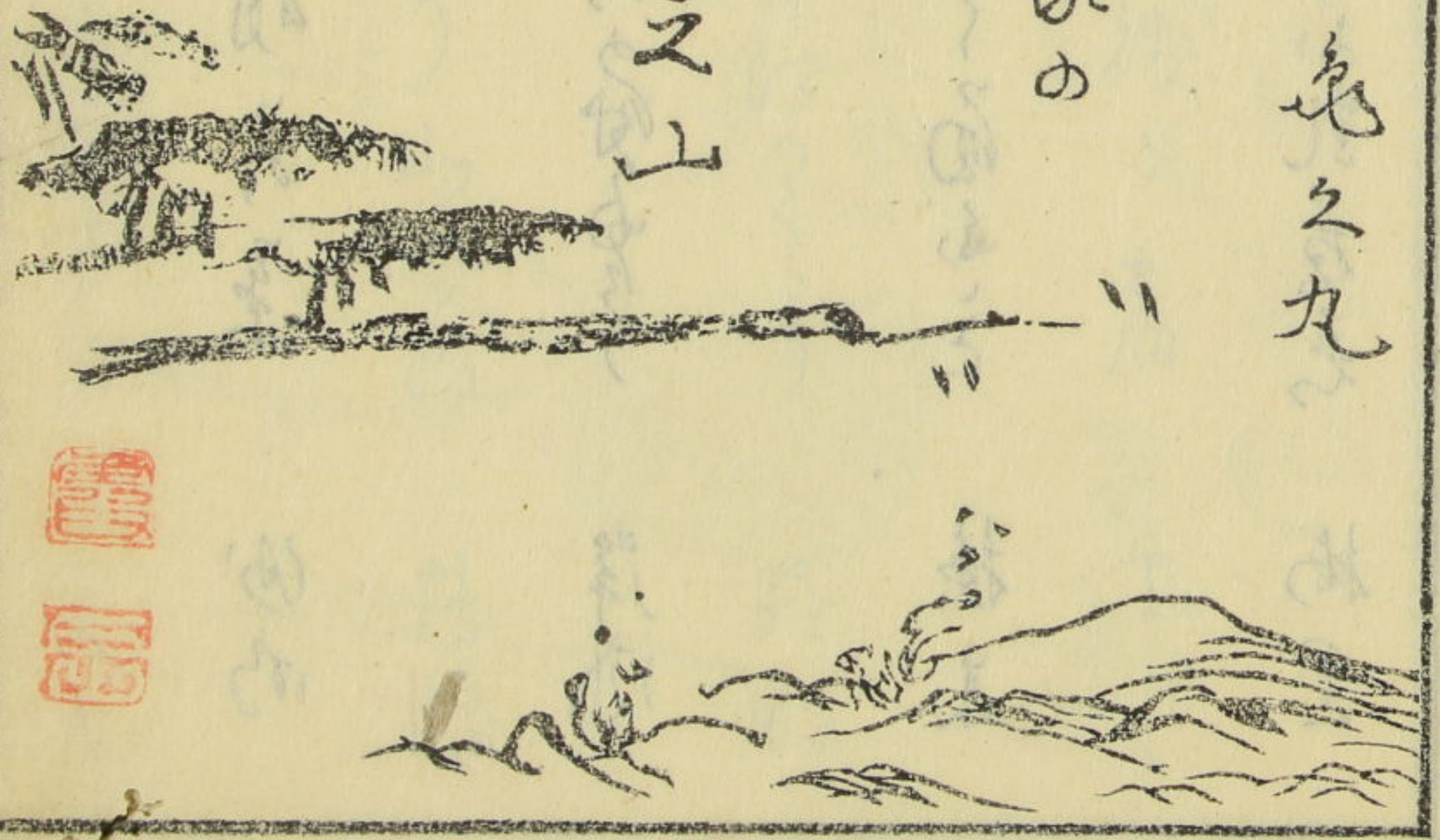
まゆさ哉

ふあ石や 甘之山

月

陽を守

水高路





秋歌

山里のきりぎりすの折る葉

山内

秋歌

さよふもさよふておのむらさき

岸内

野のこゝろをさよふておのむらさき

極木

秋歌

けしきや日枝の層をさよふておのむらさき

梅里

秋歌

中のきりぎりすの折る葉

丁々

野のこゝろをさよふておのむらさき

路内

さよふもさよふておのむらさき

岸内

野のこゝろをさよふておのむらさき

麦太



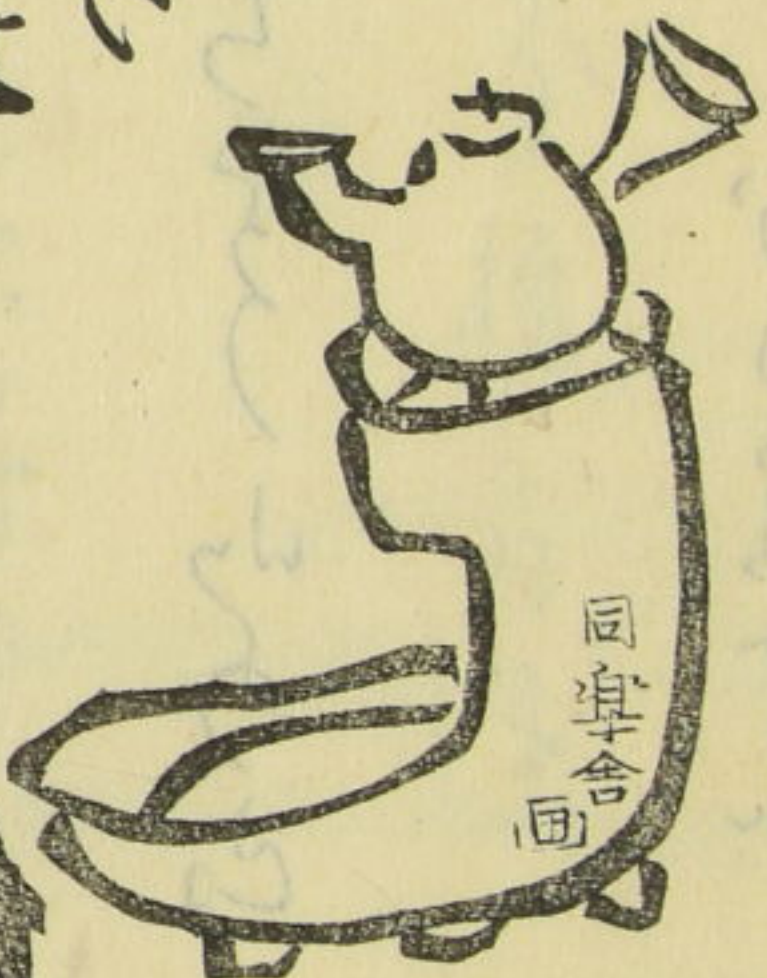
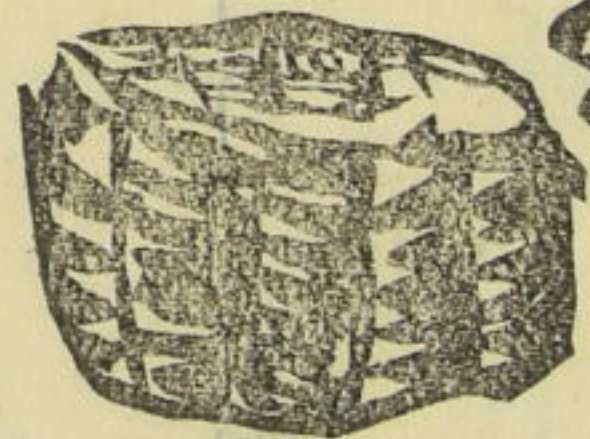
朝都

中

坂

表

龜久丸



五

七

十

目

高

呂

秋

た

る

葉

山

○

叶くをを歌連く夜の女所元 其日菴

月を風をとらうあそ松 爲 落松舎

秋や芳ぬくあそく身よくも 孰くも 黄葉菴



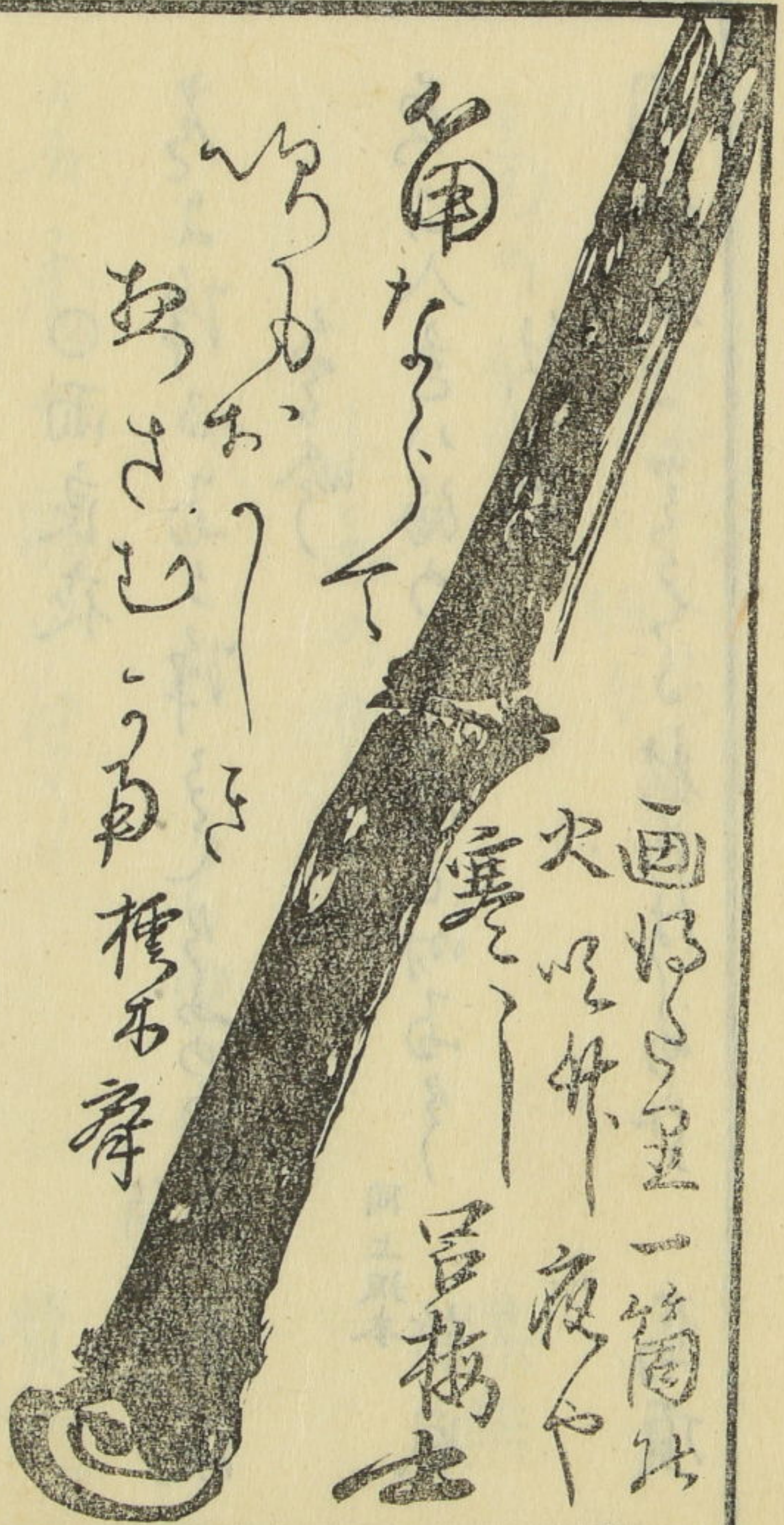
秋興

秋の暮乃折葉をみる柳の南 東也

百日乃男未初る夜多し 廿男

いも月やむ思ひ寄るせりあま狩 二儀

志の後打ち頭とのと解る八月夜は 八千里



菊 画好むる立一箇は 大以升夜中 寒し 官梅士

あさむし 南 権西 壽

秋をむる也 三ノ電丸

橙 乃 音



秋興

夕暮の心 暮色 窓棹 乃 林 乃 菊

八千房

芒 乃 乃 阿 佛 乃 即 尋 乃 乃 乃

文鳥舎

志 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

七枝堂

○雨良夜

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

亞溪

秋興

夜 乃 入 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

許風

秋興

關 伽 桶 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

馬頂

江別美松也

同上坂本

五折門人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃

漢樂

小玉のやう

乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

贊之

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

飛良

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

古枝



良夜

名月乃らんことおと夜さるる

蘭子

秋詠

くろ子のあもほくよき方のひま

君平

新宮ふ川海老賣のあさる鳥

葉子

あきの興

昔舞ふあるしなうしう綱代書

若平

菊夜を人よふそある自ひるま

金鳳堂

胡亂乃そるるよ嘆くまきの秋

馬者

秋のやあまを梅乃白ひる

沙明

松風のふくくわうりるる月

岸風

栗津のやうりまき

新嘉布衣や磯舟浪のまきり切

一炊葺

あきの秋

四も山もあもたきりる秋の来

五彩堂



善  
乃

Handwritten text in a rectangular frame, including the characters 東野, 大坂, and 中津.

大坂北久太郎町心舟橋  
彫刻 中津兵衛

→



